

み~つけた 【感謝の集い】

穂高幼稚園では年間5回の茶道教室を行っています。講師の茶道裏千家教授渡辺宗幸さんによると「お茶は自分の気持ちを整え、相手のことを思って心を込めて立てるものである。その思いを表すことが茶道の所作(作法や礼)である」のだそうです。

「相手を思うこと」や「礼」をすることは、子どもたちの日常生活にも通じる大切なことであり、子どもたちの心を育てることにもつながります。また、普段目にすることが少ない日本の伝統文化に触れることができる貴重な経験でもあります。

茶道教室で学んできた子どもたちが、お家の方への感謝を込めてお茶を点てるまでの様子をご紹介します。

【茶道教室1回目】

この日はお茶について知り、少し味見をしたり、道具を見せてもらったり、歩き方、正座の仕方、例の仕方など簡単な所作を覚えました。



こうやって座るんだね。



初めて口にするお茶のお味は…?

美味しいよ

苦い!

【茶道教室2回目】

この日はお客さんの所作を覚え、作法でお茶を飲みました。お茶を点ててくれた相手に感謝してお茶をいただきます。



【茶道教室3回目】

この日は初めてお茶を点ててみました。先生手作りの紙製の茶せんで練習をしてからお茶を点ててみます。泡を立てるように前後に茶せんを振ることをおしえてもらいました。うまく泡がたつかな？



【茶道教室4回目】

この日は相手にお茶を点てて飲んでもらうおもてなしの所作を学びました。茶碗と茶せんを乗せるために必要なお盆は、自分たちで地域の店に買い物に行ったもの、茶碗は陶芸教室で作った自分の特別なものです。

自分の抹茶茶碗を作ります。

難しいなあ



お家の方と相談して、自分で決めたお手伝いをし、ためたお金を持って買い物に出かけました。



友達のことを思いながらお茶を運びます。客になる子どもたちも、相手の気持を受け、感謝の気持ちをもってお茶をいただきます。

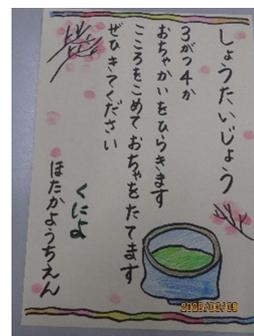


【茶道教室5回目】

最後のお茶教室は、自分のお茶碗でお家の方をイメージしながら、心を込めて友達へお茶を点てました。この日はお抹茶の量を本番と同じように通常の量に増やしました。「苦い」という子もいれば「おいしかった」の声も！ほとんどの子が全て飲むことができました。お茶を点てる時に茶碗に添えた手の指先まで意識するようになってきました。



わっ いつもより苦い?!



【感謝の集い】

卒園を目前にした3月初旬、お家の方へ感謝を伝えるためのお茶会を開きました。プレイルームに一步入るとそこは茶室。先生のお点前を見た後、いよいよ自分たちでお茶を点てます。



「春来たらば草自ら生ず」
春が来たら自然と草花が芽生えるように皆さんにもそれぞれの春が訪れる日が来ます。その日を温かく見守って下さいね。
卒園を迎える子どもたちとお家の方に向けられたお軸の言葉です。



「礼に始まり礼に終わる」

まずは親子で向かい合い「よろしくおねがいたします」とご挨拶。お菓子をお出した後、茶碗と茶せんを乗せたお盆を運びます。

よし やるぞ!



真剣な表情です。

よろしくお願いたします



お菓子をどうぞ



美味しく飲んでくれるかな？



お薄をさしあげます



学んできた作法に習って心を込めてお茶を点てます。「お家の方においしいお茶を飲んでほしい」という子どもたちの気持ちが、真剣な眼差しから、ピンと伸びた背筋から、お茶碗に添えられた指先から感じられます。

お家の方もそんな子どもたちの気持ちを受け取ろうと、子どもたちの姿を一瞬も見逃すまいと見つめます。互いの気持ちが通い合いながら時間は過ぎていきます。

我が子が点てたお茶のお味はどうだったでしょうか・・・

保護者の方からは

「とても、とてもおいしかったです」とのことでした。「子どもたちが真剣にお茶を点てる姿に、気持ちが伝わってきました」「普段見ることのない姿でした。とてもよい時間でした。」「私もいつかお茶を習ってみたいと感じました」という感想をいただきました。

終了後 茶道講師の渡辺先生から「おしるし」を授与していただきました。

卒園はもうすぐ。子どもたちにとって、お家の方にとって心に残る温かい時間となりました。